

日本教育方法学会

第41回大会プログラム

《大会日程》

第 一 日 10月1日・土	8 : 30	受 付 開 始								
	9 : 30	課 題 研 究 I 世界における授業研究の新しい挑戦と展望				課 題 研 究 II 子どもの学習意欲と授業づくりの課題				
	11 : 30									
	11 : 40									
	12 : 30	総 会								
	13 : 30	休 憩								
		自由 研究 1	自由 研究 2	自由 研究 3	自由 研究 4	自由 研究 5	自由 研究 6	自由 研究 7	自由 研究 8	自由 研究 9
	15 : 40									
	15 : 50									
		シ ン ポ ジ ウ ム 学力形成と学力調査の問題—どのような学力を形成するのか—								
	18 : 20									
	18 : 30									
	20 : 00	会 員 懇 親 会								

第 二 日 10月2日・日	9：00	受付開始							
	9：30	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	自由研究 16	自由研究 17
	12：10	休憩							
	13：00	課題研究Ⅲ 情報社会における経験とリテラシー				課題研究Ⅳ いま、「学級」を問い直す			
	15：00								
	15：20								
	16：50	ワークショップ			ラウンドテーブル①			ラウンドテーブル②	

2005年10月1日(土)・10月2日(日)
於 鹿児島大学教育学部

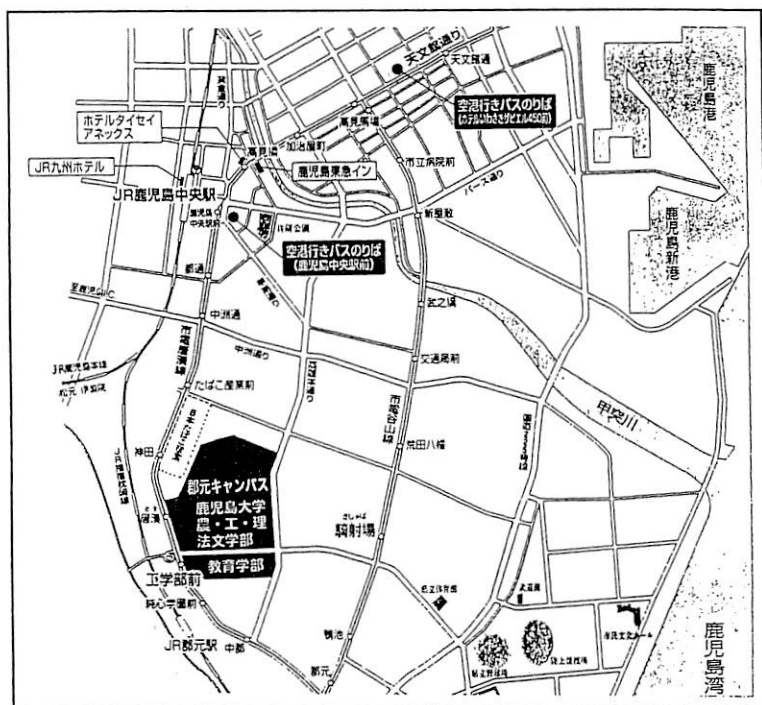
大会参加要領

1. 会場案内：会場は、鹿児島大学教育学部です。会場への経路につきましては、次頁をご参照ください。
2. 受付：大会第1日目（10月1日・土）は8：30、第2日目（10月2日・日）は9：00からです。
受付は第1講義棟1階で行います。
 - ・大会参加費（発表要旨集録代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・本年度までの学会費（一般会員8,000円、学生会員6,000円）を未納の方は、あわせてお納めください。
 - ・本年度の学会費を納入された方には、受付にて『教育方法34』をお渡しします。
 - ・会員懇親会の参加受付も行いますので、ふるってご参加ください。会費は3,500円を予定しております。詳しくは、14頁の「インフォメーション」をごらんください。
 - ・受付にてネームプレートを用意しておりますので、お名前をお書きのうえ、おつけください。
3. 昼食：土日ですが、学内の食堂に営業していただきますので、どうぞご利用下さい。
4. 研究発表：発表会場につきましては、4・5頁の「会場配置図」をごらんください。
 - ・自由研究の発表時間は、以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
(但し、口頭発表者が1名の場合は、個人研究に準じます。)
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は口頭発表者を表しています。
5. 会場校連絡先：〒890-0065 鹿児島市郡元1-20 鹿児島大学教育学部

※大会に関するお問い合わせは、学会事務局 (TEL./FAX.: 082-424-6744) をお願いいたします。

〈鹿児島大学教育学部案内図〉

【会場への主要経路】



鹿児島大学への交通手段については、下記をご参照下さい。

〈各地から鹿児島へ〉

1. 航空

羽田（17便）、大阪（13便）、名古屋（7便）ほか全国10空港からの便があります。空港から鹿児島市内へは、リムジンバス（10分おきに出発）を利用し、「天文館（てんもんかん）」または「鹿児島中央駅前」で下車（片道1,200円、所要約50分）。

2. JR

博多からは「リレ一つばめ」（在来線）及び「つばめ」（九州新幹線）利用で終点「鹿児島中央」駅まで2時間15分～30分（1日約30往復、「新八代」駅で乗り継ぎ）。

3. 高速バス

福岡（23便）、大分（2便）、宮崎（7便）のほか、大阪（2便）、神戸（1便）からの各社便があります。

4. 九州自動車道などを利用の場合

鹿児島または鹿児島北インターチェンジで一般道へ。

〈市内交通（会場まで）〉

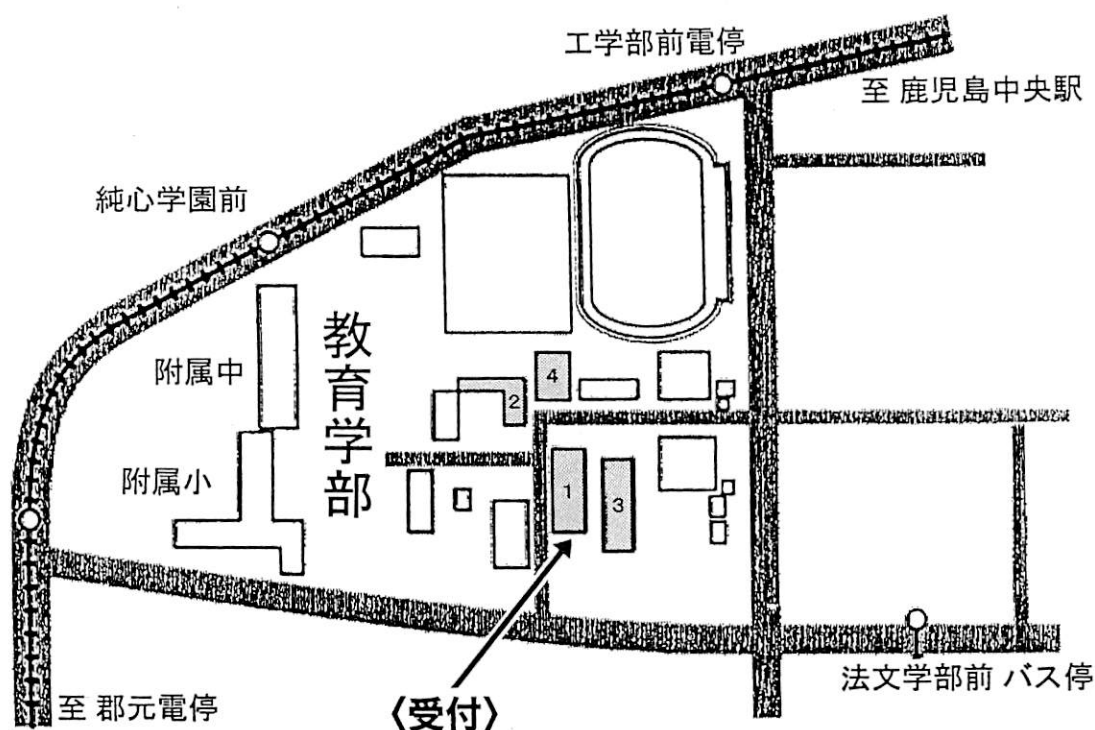
1. 「鹿児島中央駅前」または「天文館」から、市電「郡元（こおりもと）」行きで15～20分、「工学部前」で下車（料金160円）。停留所から会場（鹿児島大学教育学部）正門まで徒歩約5分。10～15分間隔で運行。分かりやすさから、市電の利用をお勧めします。

2. 市バスを利用される場合は、11または11-2系統「鴨池港」行きで「法文学部前」下車（料金180円）。「鹿児島中央駅前」からは、上に加えて、9及び20系統「鴨池港」行きもあります。いずれも時間帯によっては便数が少なくなります。「法文学部前」停留所から会場正門まで徒歩約5分。

3. JR指宿枕崎線「郡元」駅から徒歩で約10分です（JR「鹿児島中央」－「郡元」間は約5分）。

4. 「鹿児島中央」駅から会場までの距離は約2.5Km、「天文館」からは約4Kmです（道路状況によりますが、タクシー利用の場合、それぞれ800円、1,000円前後の見当です）。

〈会場配置図〉



1. 第1講義棟：総会, シンポジウム, 課題研究Ⅰ～Ⅳ, 自由研究1～5・10～14, ワークショップ, ラウンドテーブル①・②
2. 第2講義棟：自由研究6～9・15～17
3. 事務・理系研究棟：会員控室・事務局
4. 生協食堂「エデュカ」：会員懇親会

会場配置

課題研究Ⅰ・Ⅲ：103号
 課題研究Ⅱ・Ⅳ：204号
 総会・シンポジウム：101号
 自由研究1・10：102号
 自由研究2・11：202号
 自由研究3・12：203号
 自由研究4・13：204号
 自由研究5・14：305号
 自由研究6・15：21号
 自由研究7・16：22号
 自由研究8・17：23号
 自由研究9 : C

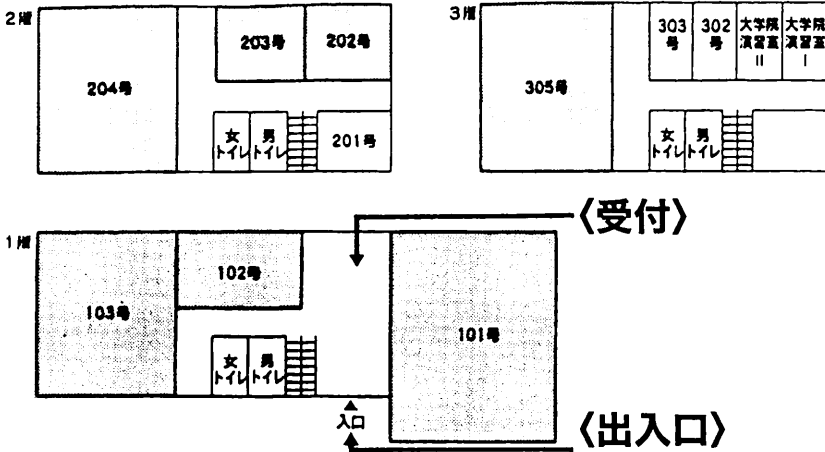
ワークショップ：202号
 ラウンドテーブル①：204号
 ラウンドテーブル②：203号

会員控室：大会議室（事務・理系研究棟2階）
 事務局：中会議室

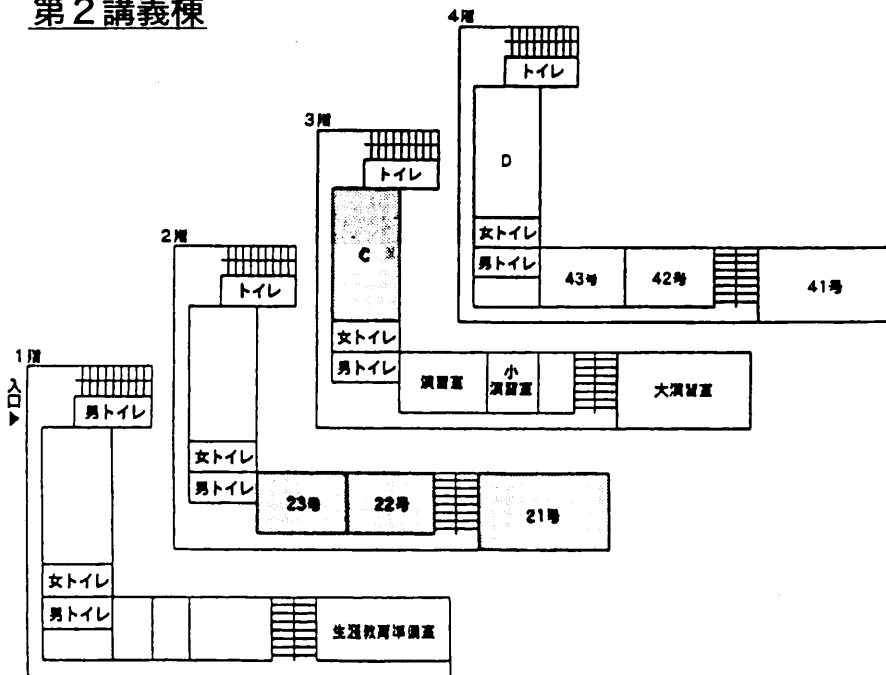
* 会員懇親会は、生協食堂「エデュカ」で開催いたします。

教育学部講義棟見取図

第1講義棟

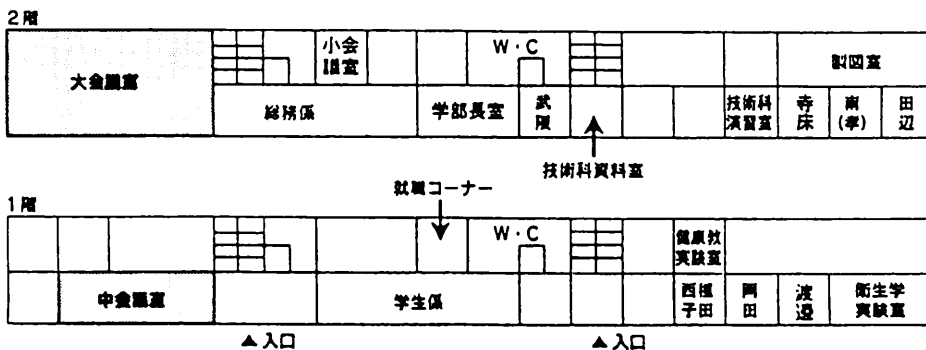


第2講義棟



事務・理系研究棟

※6階建てですが、使用するのは2階までです



10月1日(土) 9:30~11:30

課題研究 I

世界における授業研究の新しい挑戦と展望

(103号)

コーディネーター

中野和光(広島大学)
的場正美(名古屋大学)

司会者

秋田喜代美(東京大学)
中野和光(広島大学)

提案者

的場正美(名古屋大学) アメリカにおける Lesson Study の挑戦と日本への示唆 …25
Sarkar Arani Mohammad Reza 日本の授業研究のアプローチとイランへの移転 ……27
(Allame Tabatabai University イラン)
寺岡英男(福井大学) 学びの改革をめぐる世界の動向と授業研究の課題 …29

指定討論者

Dr. Keith Crawford (Edge Hill College イギリス)
庄司 他人男(福島学院大学)

(設定趣旨)

TIMSS による国際学力評価がきっかけとなり、世界、特にアメリカ、ドイツ、イラン、香港の教育関係者は日本の授業研究を基礎とした校内研修に注目をしてきている。教室での授業観察、授業改善に有効な授業記録の方法、教師が互いに授業を観察し、討論する文化の構築、など授業研究に関わるテーマが各国で論じられてきている。日本は授業研究に関して長い伝統と研究蓄積を有している。本課題研究は、日本の授業研究を世界において展開されている研究の文脈から再評価し、日本の授業研究の新しい地平を拓くことを目的としている。

授業研究は、校内研修との関係 (Lesson Study: アメリカ) だけでなく、大学における教員養成との関係 (メンター制度と授業研究: イギリス)、教科書の開発と評価との関係 (中国)、教授学との関係 (授業技術の視点からみた授業研究: ドイツ)、アクション・リサーチとしての授業研究 (カナダ、アメリカ)、教師の専門性、新教科の開発との関係など多様な文脈で論じられている。本課題研究では、アメリカ、イランの事例を取りあげ、世界における授業研究の挑戦と日本における授業研究の展望を明らかにしたい。

10月1日(土) 9:30~11:30

課題研究Ⅱ

子どもの学習意欲と授業づくりの課題

(204号)

コーディネーター

河原 尚 武 (鹿児島大学)

藤田 昌 士 (日本大学・非常勤)

司会者

橋 迫 和 幸 (宮崎大学)

藤田 昌 士 (日本大学・非常勤)

提案者

小 寺 隆 幸 (東京都多摩市立和田中学校) 数学で世界を読み解く授業を31

須 田 勝 彦 (北海道大学) 数学における単元構成と授業づくりに向けて
—中学生に語りかけたい数学のこと—33

木 内 剛 (成蹊大学) 社会科における目標と内容
—学び取りのある授業づくり—35

(設定趣旨)

昨年12月に発表された二つの国際学力調査をはじめ、近年の一連の学力調査は、日本の子どもの学習意欲の現状についても検討を要する問題を提出している。子どもの家庭での学習時間を指標として学習意欲をみると、日本の子どもは、その学習時間が参加国中、比較的あるいは最も短い部類に属するばかりか、とくに高校生の場合、お互いの間でいちじるしい格差を示し、その底辺で「学習離れ」ともいえるべき事態が広がっているのである。そこには、「受験圧力の低下」「将来への見通し形成の困難」など、さまざまな要因が指摘されるであろうが、その学習意欲にかかわって教育方法学研究が引き取るべき課題はなにか。

本課題研究は学力の一要素とされる学習意欲の問題に焦点をあて、小・中学校あるいは高校の実践に即して授業づくりの課題を考察しようとするものである。

10月1日(土) 13:30~15:40

自由研究1

(102号)

司会者 田代裕一(西南学院大学)
豊田ひさき(名古屋大学)

- 13:30 ① 五大学共同研究と斎藤喜博37
狩野浩二(鹿児島大学)
- 14:00 ② 大正~昭和戦前期における教科論の展開について38
伊藤博之(兵庫教育大学)
- 14:30 ③ 大正期から昭和初期の小学校唱歌科におけるアメリカ式音楽鑑賞
指導法の受容39
三村真弓(広島大学)
- 15:00 ④ “変化の激しい21世紀社会を生きる力”が育つ授業づくりの
必要にして十分な条件
—30年間の「ひとり学習」授業の実践と実践研究から生まれた試論的仮説—40
古賀一公(福岡「ひとり学習」授業理論研究所)

自由研究2

(202号)

司会者 池野範男(広島大学)
助川晃洋(宮崎大学)

- 13:30 ① ベルトルト・オットー学校における「子どもから」の
カリキュラム・デザインに関する研究
—低学年「算数」の授業実践の検討を中心に—41
内藤由佳子(高田短期大学)
- 14:00 ② 子ども一人ひとりの学習スタイルに応じた教育方法の理論と実践
—デンマークの公立学校改革(SKUB)プロジェクトに着目して—42
伏木久始(信州大学)
- 14:30 ③ ブランゲの学校における教育不要論の論理
—「教育的教授」を解体する「教授学的差異」(Didaktische Differenz)—43
牛田伸一(日本大学)
- 15:00 ④ ホリスティックな教材開発の方法とその実際
—日常現実社会・産業・人間との関連を中心として—44
下田好行(国立教育政策研究所)

10月1日(土) 13:30~15:40

自由研究3

(203号)

司会者 上野 ひろ美(奈良教育大学)
西岡 けいこ(香川大学)

- 13:30 ① 保育場面において遊び集団をとらえる記録とその分析
ーインフォーマル集団として遊びをとらえる方略の構築に向けてー ……45
菊池 里映(聖徳大学大学院)
- 14:00 ② 指導方法からの保育 2
ー技術と表現の間Ⅱ・保育者の「技法」の領域ー ……46
伊澤 貞治(皐月幼稚園)
- 14:30 ③ 子どもの“こだわり”に寄り添う保育
ートラブル場面に見られる保育者の道徳性と乳幼児のこだわりとの関係を探るー ……47
○橋川 喜美代(鳴門教育大学)
松本 なるみ(鳴門教育大学)
- 15:00 ④ 幼稚園・保育所における保育形態と音楽表現 ……48
○吉 富 功 修(広島大学)
三 村 真 弓(広島大学)
北 野 幸 子(福岡教育大学)

自由研究4

(204号)

司会者 甲斐 純子(福岡教育大学)
杉山 緑(山口大学)

- 13:30 ① 情報化社会における家族のコミュニケーションのあり方について(第2報) ……49
神田 美千代(鹿児島大学大学院)
- 14:00 ② 学力問題と居場所の関係における考察
ー表現活動を通してー ……50
上 中 良 子(京都大学大学院)
- 14:30 ③ マイヤー(Meyer, E.)のグループ授業理論に関する一考察 ……51
吉 田 茂 孝(広島大学大学院)
- 15:00 ④ 大学、及び予備校における「コミュニケーション型」授業の方法と課題
ー授業の一回性をとらえる授業分析の視点ー ……52
成 田 秀 夫(河合文化教育研究所)

自由研究5

(305号)

司会者 中村 亨(西南女学院大学)
三橋 謙一郎(徳島文理大学)

- 13:30 ① 教師の説明の仕方に着目した授業分析53
落合一浩(筑波大学大学院)
- 14:00 ② 教師による生徒の学習活動の「枠付け」54
佐藤英二(明治大学)
- 14:30 ③ 「ゆれる発問」に関わる一考察55
加藤郁夫(大阪府立柏原東高校)
- 15:00 ④ 身近な自然物を題材とした授業における子どもの観察と表現56
○柴田好章(名古屋大学)
○伊藤久仁香(名古屋大学大学院)
○廣瀬尚子(名古屋大学大学院)
○前田愛子(名古屋大学大学院)

自由研究6

(21号)

司会者 庄司 他人男(福島学院大学)
白石 陽一(熊本大学)

- 13:30 ① ドイツにおける構成主義の評価に関する一考察57
高木 啓(広島大学大学院研究生)
- 14:00 ② 講義改革によって学生の〈学び〉はどう変わったか
—事後インタビューから学生の授業経験をさぐる—58
岩崎紀子(福島大学)
- 14:30 ③ 構成主義的学習観と教育関係の見たて直し59
広石英記(東京電機大学)
- 15:00 ④ 演劇的表現技法を用いた授業改革の実践的研究60
渡部 淳(日本大学)

10月1日(土) 13:30~15:40

自由研究7

(22号)

司会者 菅岡強司(熊本大学)
土井捷三(園田女子大学)

- 13:30 ① 概念理解を促す数学ツールの使用過程
ー記述の変容から数直線図の理解を捉える枠組みー61
河野 麻沙美(東京大学大学院)
- 14:00 ② 数学教育の中で環境問題を扱う意義と方法62
小寺 隆幸(東京都多摩市立和田中学校)
- 14:30 ③ 明治検定期算術教科書における分数除法の意味と規則に関する説明
ー第Ⅰ期・後期および第Ⅱ期の教科書を主要な対象としてー63
岡野 勉(新潟大学)
- 15:00 ④ 「筑駒SSH研究」について考える
ー「学校の文化」と「受験の文化」に焦点を当ててー64
井上正允(佐賀大学)

自由研究8

(23号)

司会者 小林 恵(上越教育大学)
水内 宏(聖母大学)

- 13:30 ① オープンスクールにおける生活科・総合学習カリキュラムの
開発に関する研究(2)
ー日本の学校教育史における諸学校との関わりを視点にしてー65
東 嶋 さやか(愛知教育大学大学院)
- 14:00 ② 地域コミュニティによる学校カリキュラムの開発に関する研究
ー本郷プランとK市立G小学校の実践の比較を通してー66
王 妍 蕾(大阪市立大学大学院研究生)
- 14:30 ③ サービスラーニング(Service-Learning)の授業構成因子に関する研究
ー「リフレクション」(Reflection)との関係性に着目してー67
倉本 哲男(佐賀大学)
- 15:00 ④ スコットランドにおける学校・学級援助活動の事例的考察
ーSSEN(Scottish Schools Ethos Network)の取り組みを中心にー68
富田 充保(札幌学院大学)

10月1日(土) 13:30~15:40

自由研究9

(C)

司会者 林 義樹(横浜国立大学)
三上 勝夫(北海道教育大学)

- 13:30 ① 大学教養教育における学習共同体の構築69
杉原 真晃(京都大学大学院)
- 14:00 ② G. ウェルズの探究のコミュニティ論に関する一考察70
平田 知美(広島大学大学院)
- 14:30 ③ 学校ボランティアの活動形態による教職志望学生の学習効果の比較研究71
姫野 完治(秋田大学)
- 15:00 ④ 大学1年生による授業づくり実践の意義と効果72
○小 泉 祥一(東北大学)
○中 田 亜希子(東北大学大学院)

シンポジウム

学力形成と学力調査の問題
—どのような学力を形成するのか—

(101号)

コーディネーター

市川 博(帝京大学)
小泉 祥一(東北大学)
高田 清(福岡教育大学)

司会者

小泉 祥一(東北大学)
高田 清(福岡教育大学)

提案者

- 市川 博(帝京大学) 「ゆとり教育」30年の検討
—学力形成の視点から—73
- 大野 栄三(北海道大学) 理科学力調査の問題分析
—協調の原理の視点から—75
- 佐藤 邦宏(仙台市立郡山中学校) 社会科学力調査の学校現場への影響と問題
—学力形成と授業改善の視点から—77

指定討論者

峰 司郎(福岡県勢門小学校)
滝 紀子(河合塾)

(設定趣旨)

「ゆとり教育」の淵源を近年に求めるならば、昭和43年版学習指導要領までの、知識を教え込みがちだった教育を反省して、新たな学習指導要領の編成に取り組み始めた昭和50年代初頭にまでさかのぼることができる。

それからすでに30年が過ぎた。この三分の一世紀の間に、ソ連をはじめとする社会主義体制の崩壊、バブル経済の崩壊、構造改革・規制緩和、9・11事件、イラク戦争などの社会情勢の変化とともに、教育の改革も進められてきた。規制緩和は一部にとどまり、逆に強化された面もあるが、規制緩和により、学校・教師・児童生徒の自由で創造的な意欲ある活動が奨励された。だが、児童生徒の一部は「学校」から逃走し、また、民間教育研究運動は衰退気味である。

規制緩和の一つとして「ゆとり教育」が進められてきたわけであるが、それは、教育界に、果たして、何をもたらしたのか。また、新たに生み出された問題に対して、きちんと対応してきたのであろうか。小手先の対症療法では、教育界を混乱させるだけであり、根本的な解決にはならない。今日、この三分の一世紀の教育について厳しく検討し、問題点を明らかにして、今後の在り方について明確な展望を打ち立てることが求められている。

そこで、今回のシンポジウムでは、①「ゆとり教育」といわれてきた教育の事実(実態)を学力形成の視点から整理、②文部科学省や各地方自治体の「学力調査」(理数系・文系)の問題を分析し、「学力」の何が測られているのかを検討するとともに、③教育現場と学校外部の学習塾の立場から、学力問題および学力調査の影響と問題点について発言を求め、問題の解明と解決への展望を見出すものとした。

インフォメーション

●会員総会

日 時 : 第1日(10月1日(土)) 11:40～12:30

会 場 : 101号

主な議題 : 会務報告

2004年度決算

2006年度予算案

次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひとも多数ご参集ください。

●会員懇親会

日 時 : 第1日(10月1日(土)) 18:30～20:00

会 場 : 生協食堂「エデュカ」

会 費 : 3,500円(予定)

会員相互の親睦をはかるため、懇親会を開きます。多数の会員のみなさまの参加をお願いいたします。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』の最新刊およびバックナンバーを、会員割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

また、本大会の『発表要旨集録』を別途希望される方には、1冊800円にて頒布いたします。

なお、『教育方法』最新刊(第34巻)は、本年度の学会費を納入された方には、受付の際にお渡しいたします。(大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。)

10月2日(日) 9:30~12:10

自由研究10

(102号)

司会者 安彦忠彦(早稲田大学)
天野正輝(龍谷大学)

- 9:30 ① 英語の比較表現の教育内容構成79
亘理陽一(北海道大学大学院)
- 10:00 ② 全人教育としての地理学習プランの構築②
ーシュタイナー学校の6学年を参考にしてー80
矢野博之(広島大学大学院)
- 10:30 ③ デューイ・スクール(Dewey School)における
「読み(Reading)」・「書き(Writing)」のカリキュラムに関する一考察81
森久佳(愛知江南短期大学)
- 11:00 ④ 戦後初期コア・カリキュラムの可能性と問題点
ー元教師・教え子インタビューを手がかりにー82
金馬国晴(横浜国立大学)
- 11:30 ⑤ カリキュラム・コーディネーターの力量形成過程に関する考察
ーあるベテラン教師のライフストーリーからー83
木原俊行(大阪市立大学)

自由研究11

(202号)

司会者 黒川久美(鹿児島大学・非常勤)
諸岡康哉(金沢大学)

- 9:30 ① ヴィゴツキー理論における「心理的道具(記号)」の概念に関する一考察
ー子どものシンボル活動を中心にー84
岡花祈一郎(広島大学大学院)
- 10:00 ② 地域子育て支援センターの役割について
ー状況の多重性の中での「居場所」創出の場として(3)ー85
松永愛子(日本女子大学大学院)
- 10:30 ③ ペスタロッチの教育実践における福祉の視点86
深澤悦子(広島福祉専門学校・非常勤)
- 11:00 ④ 保幼小接続の課題87
上野ひろ美(奈良教育大学)
- 11:30 ⑤ 教師の専門性と事件(災害)の教材化
ー西方沖地震から何を学び何を教えるかー88
○麻生信子(筑紫女学園大学・非常勤)
○久我尚子(佐賀県中学校)
○山口文子(福岡県中学校)

10月2日(日) 9:30~12:10

自由研究12

(203号)

司会者 権 藤 誠 剛 (島 根 大 学)
田 淵 久美子 (活 水 女 子 大 学)

- 9:30 ① 「いじめ問題」へのアプローチにおける「対話・討論・討議」89
福 田 八 重 (愛知教育大学・非常勤)
- 10:00 ② 通常学級におけるニーズを満たすのに特別な困難をもつこどもの支援90
竹 内 元 (宮 崎 大 学)
- 10:30 ③ 知的障害のある人の高等教育について
ーオープン・カレッジにおける授業事例ー91
岩 永 力 男 (大 阪 大 学)
- 11:00 ④ 思春期の性教育における男女別学習と男女合同学習の意味
ースウェーデン王国の事例を参考にー92
佐 藤 年 明 (三 重 大 学)
- 11:30 ⑤ 学級集団における子ども一人ひとりの内的秩序感覚成立の条件について93
○小 川 博 久 (聖 徳 大 学)
○岩 田 遵 子 (東横学園女子短期大学)

自由研究13

(204号)

司会者 黒 田 耕 司 (北 九 州 市 立 大 学)
牧 戸 章 (滋 賀 大 学)

- 9:30 ① 体験活動と子どもの思考の研究
ーコミュニケーションを視点とした授業分析からー94
酒 井 喜八郎 (名 古 屋 大 学 大 学 院)
- 10:00 ② Multiple Intelligences 理論に依拠した小学校理科の授業展開95
藤 澤 義 栄 (岩手県大迫町立外川目小学校)
- 10:30 ③ 高等学校における授業研究の課題の整理
ーその2ー96
加 納 幹 雄 (岐阜県立各務原高等学校)
- 11:00 ④ 授業における板書の事例分析
ー公開授業を中心としてー97
大 庭 茂 美 (九 州 女 子 短 期 大 学)
- 11:30 ⑤ スキルクリエイタシステムを活用した教育実習生及び
初任者教師の授業実践能力育成支援の試み98
○平 山 勉 (名 城 大 学)
○後 藤 明 史 (名 古 屋 大 学)
○竹 内 英 人 (名 城 大 学)

10月2日(日) 9:30~12:10

自由研究14

(305号)

司会者 小野 擴 男 (岡山 大 学)
谷 本 美 彦 (宮 崎 大 学)

- 9:30 ① 異教科ティーム・ティーチングの実践的課題に関する一考察99
池 上 裕 子 (大阪市立大学大学院)
- 10:00 ② 青年期の発達課題と中等教育における総合的な学習の可能性100
安 達 仁 美 (名古屋大学大学院)
- 10:30 ③ 現代ドイツにおけるプロジェクト法の展開に関する一考察101
渡 邊 眞依子 (広 島 大 学 大 学 院)
- 11:00 ④ 「総合的な学習の時間」における「学ぶ力」の検討102
小野沢 美明子 (日 本 大 学 大 学 院)
- 11:30 ⑤ 中学校と学習塾の英語授業の比較
ー同一単元の授業のフィールドワークからー103
○瀧 川 梨 恵 (名古屋市立福田小学校)
○高 橋 英 児 (山 梨 大 学)

自由研究15

(21号)

司会者 小 柳 和喜雄 (奈 良 教 育 大 学)
森 岡 修 一 (大 妻 女 子 大 学)

- 9:30 ① 居眠りに関する教師の無意図的教育効果の顕在化を通した
＜明文化されていない規範＞の実証的研究104
早 坂 淳 (筑波大学大学院)
- 10:00 ② 教師の職業的成長のためのホームページの分析とその実践
ー民間教育研究団体のホームページづくりを通してー105
古 川 彩映子 (広 島 大 学 大 学 院)
- 10:30 ③ 「学びの共同体」づくりと教師の指導性に関する一考察 (5)106
三 橋 謙一郎 (徳 島 文 理 大 学)
- 11:00 ④ 国語科の授業 (文学教材) における「言葉の意味の発達」(ヴィゴツキー)
の実践的研究 1107
○宮 坂 義 彦 (元 ・ 三 重 大 学)
○石 井 俊 樹 (名古屋市立大森小学校)
○森 川 拓 也 (三 重 大 学 大 学 院)

10月2日(日) 9:30~12:10

自由研究16

(22号)

司会者 原田 信之(岐阜大学)
三村 和則(沖縄国際大学)

- 9:30 ① 統一後ドイツから見た東ドイツ教授学の評価に関する研究108
吉田 成章(広島大学大学院)
- 10:00 ② 日常経験と科学的思考
ーヴァーゲンシャインの教授学を中心にー109
石村 秀登(別府大学)
- 10:30 ③ ヴァルドルフ教育学をめぐる議論
ーJ. キールシュ対K. プランゲー110
土屋 文明(日本大学)
- 11:00 ④ 中間項による子どもの思考の顕在化
ー事例, 概念, 構想の相互関連ー111
的場 正美(名古屋大学)
柴田 好章(名古屋大学)
○石原 正敬(三重県議会議員)
○坂本 将暢(名古屋大学大学院)

自由研究17

(23号)

司会者 片上 宗二(広島大学)
山下 政俊(島根大学)

- 9:30 ① カリキュラム開発における実践知の創出
ーナレッジワーカーとしての教師へー112
島田 希(関西大学大学院)
- 10:00 ② メタファー法による教師の「教師」「授業」イメージの検討113
深見 俊崇(大阪市立大学大学院)
- 10:30 ③ 教育実践の規定要因としての校長の資質・力量
ーライフヒストリー的アプローチを通じてー114
山崎 雄介(群馬大学)
- 11:00 ④ ライフヒストリー的アプローチに基づく教師の授業スタイルの研究
ー奈良女附小の学校文化との「出会い」と授業の変革に焦点をあててー115
○森脇 健夫(三重大学)
○大西 宏明(三重大学大学院)
岩崎 紀子(福島大学)

10月2日(日) 13:00~15:00

課題研究Ⅲ

情報社会における経験とリテラシー

(103号)

コーディネーター・司会者

日比 裕 (東海学園大学)

渡邊 光雄 (筑波大学)

提案者

藤原 幸男 (琉球大学) 知識社会におけるリテラシーと学習 ……………116

大河原 清 (岩手大学) 佐世保小6 女児同級生殺害事件は、事件後どのよう
に受けとめられたか？

—小6 女児の映像メディア経験とリテラシー

についての一考察を通して— ……………118

本田 敏明 (茨城大学) 情報社会における日常性

—近未来の社会像を例に— ……………120

(設定趣旨)

情報社会において、読み書き読解能力、TV 視聴能力、コンピュータ活用能力、情報活用能力等をまとめて「リテラシー」とみなすとき、その「リテラシー」を育む「経験」はどのようなものになるのでしょうか。従来、生活に必要な諸能力の育成に関する議論では、つねに、それらを育む「経験」のあり方が問題にされてきた。その「経験」に関して、今日の思考研究は、日常的な「経験」における思考に諸々の「バイアス」(偏り)が潜在的に見られることを実証している。「経験」を介した「リテラシー」の育成は、こうした思考の「バイアス」によって歪みを生じさせられるという潜在的脅威につねに晒される状況にある。そこでは、「リテラシー」を育成する「経験」のあり方の日常的な実現が、少なくともその育成上の歪みの分だけ難しくなる。「リテラシー」を育む「経験」のあり方を情報社会の日常性においていかに実現するかという問題意識の下に、本課題研究は設定された。そして、「学習研究」、「教育コミュニケーション研究」、「情報教育研究」の各立場からの提言を行う。

10月2日(日) 13:00~15:00

課題研究Ⅳ

いま、「学級」を問い直す

(204号)

コーディネーター

久田 敏彦(大阪教育大学)

湯 浅 恭 正(大阪 市 立 大 学)

司会者

碓 井 岑 夫(四天王寺国際仏教大学)

湯 浅 恭 正(大阪 市 立 大 学)

提案者

久田 敏彦(大阪教育大学) 学級編成のポリティクスと学級の再定義 ……122

小川 博久(聖徳大学) 「学級」というシステム批判の中で「学級」存立の
意義は何か ……124

浅野 誠(フリー教育研究者) 子どもたち・教師たちが編成し発展させる
「学級」へ ……125

(設定趣旨)

学級は、学校での教育実践の組織的基盤として自明視されてきた。だが、今日、制度としては解体されないまでも、編成行為のレベルでは、学習集団と生活集団の分離、習熟度別学習の導入、生活の共同体主義的な再編などが政策的に求められ、学級は、もはや安定的ではない事態を迎えている。一方、たとえば学級崩壊にみられるような学級のもつ制度文化の解体現象も依然として深刻である。また、それだけに自明視されている学級を疑うという提起もなされるにいたっている。さらに、特別なニーズをもつ子どもの存在からも学級のあり方の検討が迫られている。いま、あらためて学級とは何かが問われなければならない状況であるといつてよい。

この課題研究では、学級編成のポリティクスをも視野に入れて、教育実践における学級のもつ意味や今後の可能性などについて討論し、深めていきたい。

10月2日(日) 15:20~16:50

ワークショップ

ワークショップ型の授業

(202号)

企画・進行役 (コーディネーター)

浅野 誠 (フリー教育研究者)

次のようなことを、ワークショップスタイルですすめていきます。

- (1) ワークショップ型授業をどんなものととらえ、これまでの一般的な授業スタイルとのかかわりでどのように位置づけるか。
- (2) ワークショップ型授業の経験。
- (3) ワークショップ型授業について、どんな関心をもっているか。
- (4) ワークショップ型授業をどのように育てていくか。

☆問題提起者・報告者・コメンテーターなどはたえずに、参加者すべてが対等の関係で、多様な出会い・共同創造へと向かうように進行します。

☆できれば、ワークショップ型授業についての、今後の交流・論議・共同創造のきっかけにしたいと期待しています。

進行 (予定)

- (1) アイスブレイキング 自己紹介と関心の共有もあわせて
- (2) ワークショップにかかわるキーワード・短文のポストイット貼りにもとづくポスター討論
- (3) (2) をもとに、フリー討論
- (4) 感想、要望、提言、提案などの提出とそれらについての討論

当日、ワークショップ型授業についての実践例・資料などを持ち込まれることを期待します。

出席を考えている方で可能な方は、事前に下記アドレスの「浅野誠のホームページ」をご覧ください。そこに掲載されている浅野誠のメールアドレスまでご連絡ください。

10月2日(日) 15:20～16:50

ラウンドテーブル①

国語科の授業研究

—「確かさをふまえた楽しい国語科の授業」の創造をめぐって—

(204号)

コーディネーター・司会者

柴田 義松 (東京大学名誉教授)

宮坂 義彦 (元・三重大学)

問題提起者

主報告：麻生 信子 (筑紫女学園大学・非常勤)

副報告：加藤 郁夫 (大阪府立柏原東高校・大阪樟蔭女子大学・非常勤)

指定討論者

鶴田 清司 (都留文科大学)

森岡 修一 (大妻女子大学)

山口 文子 (福岡県中学校)

(設定趣旨)

(主報告)：教育現場における国語科の授業研究40数年の歩みを振り返りながら、つぎのような問題提起を行ない、皆様とともに議論したい。

- (1) 指導書に頼りながら、流行の方法論を取り入れた実践をする(6年間)
- (2) 文芸学を学びながら、教材分析に力を注ぎ、教材分析から授業の構想を導き出す指導案を書き、授業をする(7年間)
- (3) 上の(2)をふまえ、ジャンル別(古典、詩、物語、説明的文章など)の指導案を書き、授業をする(34年間)
- (4) 上の(2)(3)をふまえ、「確かさを踏まえた楽しい授業」の研究に取り組む(1年前から)
- (5) このような歩みのなかで、今私が提唱しようとしている「確かさをふまえた楽しい授業」のあり方について、短い古典ないし詩の授業実践を鹿児島大学附属中学校で公開し、国語科の授業研究に関心をお持ちの皆様と議論し合うことにしたい。

(副報告)：上と同じ教材について別の授業案を提起する。

*上の研究授業が、大会前日(9月30日午後3時より)に鹿児島大学教育学部に隣接する附属中学校にて公開されます。参観を希望される方は、9月20日(火)までに学会事務局までお問い合わせ下さい。

ラウンドテーブル②

高等教育における「ことばの学び」

(203号)

企画・司会

牧戸 章(滋賀大学)

パネラー

松本 薫子(河合塾)

森 美智代(鈴峯女子短期大学)

長澤 貴(東京経済大学・非常勤)

(設定趣旨)

高等教育における授業を支配してきたのは、学習および発達の個人主義と認知主義である。高等教育においては、グループ活動を中心とした共同的な学びの授業形態として授業が組織されることは少なくなる。しかし、年齢が上がり、学習経験を積み重ねてきた学習者は、個人的かつ認知的にのみ学習しているのであろうか。

このことは、高等教育における学びをいかに分析すればよいのかという問いを含んでいる。個人主義的な学習観と認知主義は、90年代以降、学習・発達の文化的アプローチや、状況論的アプローチ、そして活動理論らによって批判されてきた。そこで提起されたのは、学習と発達をコミュニティとアイデンティティーの変容としてみる視点である。

本ラウンドテーブルでは、コミュニティやアイデンティティーの変容として高等教育における学習を捉え、高等教育における授業の分析のための枠組みを提起したい。

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法9.	現代訓育理論の探究	1977	(2,205円)
教育方法12.	学級教授論と総合学習の探究	1982	(2,730円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1985	(2,940円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1987	(2,520円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1988	(3,045円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1989	(2,039円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1990	(1,794円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1991	(1,794円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1993	(1,896円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1994	(1,896円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1996	(1,998円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1997	(1,890円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1998	(2,058円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革		
	—新学習指導要領の教育方法学的検討—	1999	(1,953円)
			(価格は税込)

〒170-0005

東京都豊島区南大塚2-39-5

明治図書

TEL.(編)03-3946-3151・3152

TEL.(営)048-256-1175

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2000	(1,890円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2001	(1,890円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2002	(1,995円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2003	(1,995円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2004	(1,995円)
			(価格は税込)

最新刊・教育方法34. 『新教育課程の開発と授業論の探究』

〈内 容〉

- I. 現代の教育課程改革と授業論の探究
- II. 学習集団論の新展開
- III. 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-5

図書文化

TEL. 03-3943-2516